

# 公共政策学と産業政策論の統合を めぐる課題について

—総合政策学序論研究の試み—

小栗 幸夫, 熊田 禎宣  
日向寺 純雄, 樹下 明  
影山 僖一

## 目次

はじめに：応用プロジェクトの研究意図について

- |   |       |
|---|-------|
| 1. モデル・シミュレーション・アプローチの限界性と今後の展望               | 小栗 幸夫 |
| 2. 科学研究の主観性について                               | 熊田 禎宣 |
| 3. イタリア財政学と公共選択論：研究の軌跡                        | 日向寺純雄 |
| 4. 公共政策と総合政策学に関する提案<br>：ホリスティックな知の再編成への挑戦（要旨） | 樹下 明  |
| 5. 社会科学理論と組織研究<br>：産業組織論から新制度派経済学への軌跡         | 影山 僖一 |

参考資料：応用プロジェクト設置届

## はじめに：応用プロジェクトの研究意図について

国民本位の政治システムの確立に向けて政策学の進化が期待されている。そうした趣旨を徹底するために、本学大学院政策研究科博士課程においては、平成13年度の秋学期に教員と学生による共同研究（応用プロジェクト）が推進された。その際のテーマが、公共政策学と産業政策学の融合であった。それら双方の学派の共同作業により、より広範な政策学、いわゆる総合政策学の確立が希求されてきた。半年間にわたる教員と学生による報告と討論が重ねられた。結果としては、一つの核となる明確な成果はえられなかったが、序論としての研究上のヒントを得ることはできたと考えている。それらの活動成果の一部は、以下の研究機関誌に掲載されている。残りの成果が本誌において紹介するものである。

すなわち、

- (1) 学生の研究活動の一部は本学大学院博士過程の機関誌である「*Review of Policy Studies*」第2号ならびに第3号（2003年3月刊行）に掲載されている。
- (2) 客員教授である樹下明氏の報告については、国府台学会機関誌であるディスカッション・ペーパー創刊号に掲載されている。

平成13年12月1日（土）に、当応用プロジェクトにおいて報告された樹下明氏の報告要旨の原稿は、極めて分量が多かったため、別途、国府台学会のCUCディスカッション・ペーパーの創刊号にその要旨を掲載して頂くこととした。そこで、本稿は、教員による研究会参加者の報告の中で、樹下明氏を除いた参加者による報告を取りまとめて掲載したものである。（樹下氏の報告の要旨は本稿においても紹介されている。）

これらの論稿は、公共政策と産業政策の統合を目指した報告の序論的な試みであり、十分に納得の出来る成果とはなっていないが、読者の方々の参考に供する事が出来れば幸いである。

なお、本応用研究プロジェクトに参加され、何かと、学生に対するご指導を賜った博士課程のナビゲーター各位に感謝したい。千葉商科大学大学院博士過程の専任教員である伊藤公一教授、小倉信次教授、岡本博司教授に対して、この場を借り

て謝意を表したい。

今後は是非とも、研究報告をお願いしたいと考えている。

### 参 考 文 献

1. 大学院生の業績については以下の文献を参照して頂きたい。  
Graduate School of Policy Studies, Doctoral Program, Chiba University of Commerce,  
CUC Policy Studies Review, No.2, 2003年3月。  
CUC Policy Studies Review, No.3, 2003年3月。
2. 樹下明氏の報告は以下の文献を参照して頂きたい。  
樹下 明「ホリスティックな政策研究の本来的課題：Original Propositions of  
Holistic Policy Studies」CUC Discussion Paper, No.1, 2002年12月。